加之下
九百九拾四

東砌葛記

全

特別
ル7
3832

ル7
3832

神宮文庫

神宮文庫

東砂蒼記 出紅毛 昔紀元一千七百六十八年 所刻者自今寛政四年二十三年前

厚生按スルニ紀元一千七百六十八年八明和五年戊子ニ當ル寛政四年ヨリ二十五年前ナリ

按ルニ蝦夷ノ属島ノ十三リヨリ直路吾里法ニテ二百五拾里許ニ是偏里数及町間尺ヲ云フ者皆吾法ニ化シテ記之 當テカムサツカ国アリ吾邦ノ人奥蝦夷 ヒロ モノ是ナリ歌暹巴大洲ノ中曾西亜 ヒロ 国吾天文ノ末年ヨリ其属国漸ク廣大ニナリ特ニ東之方遠ク亜細亜大洲ニ及フ耶アテヒヤハルニヤ大モツ ルヒロ 中国 支那満洲等ノ北方ヲ悉ク経テ蝦夷ノ北東ニ至テ亜細亜ノ地ヲ尽シ乃蝦夷ヨリ東ニ過ルヿカムサスカ及其属島ニ至ル其国東西ニ長キヿ千八百七十度ニ及ス統界無双ノ大国ナリ 北亜細亜北方ノ地ヲ統テシニシトト号是ハ元魯西亜ニ近キ亜細亜中ノ地名

〈95-262〉

ナルヲ以テ此大地ノ統名トシタルナリ然ニ此カムサツカノ国畺並ニ山川等ノ紀事詳ナルモノ未タコレヲ見ス是冊子ハ和蘭地理ヲ記セル一二ノ尺々中ヨリ採録シテ是ヲ譯記シ坐右ニ置テ他日ノ校補ニ供シ草稿ニ属スルモノナリ

寛政己酉春二月

西邦ノ記元一千七百六十四年ニ當西亜ノ主ニ工リサベツト伝女帝ノ代ニ「カラスヘニ」コヒ伝人ヲ撰ハシ登ニ出タリ又「ステツピル伝人其登書ニ依テ此地及此辺ノ諸島ヲテヲ巡検シテ是ヲ修録ス即此国ノ漸々開ケタル史アノリカ列ノ堺ニテ見分ス

イルクツカ 又ハ大ヌカ 所謂イルカウツカすり

東砂葛ハ桑西ノ大国魯西亜ノ属国ナリ彼東方ニヘリイフ東辺ニイルクツカ伝大地ニ属セル七国ノ一ナリ此國イルクツカノ東辺ノ地ヨリ南西ヘ長クサシ出テ其北方イルクツカニ接スル処五十九度半ナリ其疆ノ地狭クシテ中ニ山アリコノ山ヨリ睛日ニハ東西ニ海ヲ見ルナリ図ニ係テコレヲ量ルニ其幅六十里許

又東西ニ川アリ東ハアナヽ伝カムサツカ海ニ入ル西ハピユスダヤ伝ヘンスキンスカ伝地ノ港ニ入ル此国長サ二百四拾里図ニ係テ其濶サヲ量ルニ東西ノ濶キ処百四拾里余ナリ其南ノ崎ヲクリルスカヤロパトカト名クル北五拾一度半ニ當ル帝都ペテルスブルグト相距ル一百二十七度ナリ此国中ニカムサスカ伝大河アリ其源已北五十四度ノ辺ヨリ北流シテ五十六度半ニテ東海ニ入ルナリ此河ノ名ヲ以テ国ノ名トスルナルヘシ此餘ハアツツカ ポルスカヤレカ テギル伝大河アリ山ハ国中一道ニ連接スルガ如シ山中荒蕪ニシテ石多シ一二ノ

火山アリ中昔ヨリ常ニ烟立テ止マス時ニ焰ヲ発シ灰ヲ
降ラスナリ其一ハアハシニスケイ辰マワツカ河ノ傍ニ
アリ其二ハトルパシニスケイ辰カムサスカ河トトルハ
ウルステニハ今ウルステニ以一度トス又ウルステ
シヤノ里法三百
シキ川トノ間ニアリ其三ハカムサスカ山ナリ是国中第一
高山ナリ晴天ニハ才ツペルホルトカムサスカト相
距ル一六十里ナル地ヨリ見ユルナリ此山脚周八十三里
ハ七十九ウルステニヲ一度トスルアリ
半許ナリ毎年二三度灰ヲフラスナリ甚キ時ハ山脚周
地ニ二尺餘厚サヲ積ルナリ元文二丁巳ノ秋焰ヲ発ル
スルヿ甚シク砂石火ノ如焼タルモノ又諸色ノ硝子堀
多ク降リタリ
ハテメンハ凡モ
丈許ナリ
此部ノ一回ヲ
モ和蘭人ハ
テメンノト云由
然ルニ数回ヲ
五テ大三五フ
温泉多シシテ川ノ辺ニアルモノ其山脚海ニ傍ル
処洞ヨリ出ツ一ノ温水流ルヽ三十一町餘ニシテ海ニ入ル如
ノ深サ五尺許川口ノ濶サ廿四間余其水常ニ夏時ノ
熱サナリ此処ヨリ十五町ヲ去テ又一処アリ其内ニ熱
泉アリ一ハ六間許一ハ四間許ノ直径ナルモノナリ其沸
涌スル音囂々嘈々若人大ニ号レハ忽蒸気高ク上リテ八
九間相隔テ立モノ相見ルヿナシ其時水面ニ黒キ沸沫アリ
若シ指ニ粘着スレハ洗去ルヿ甚難シ
地震洪波数々アリ火山ノ辺地震殊ニ甚シ
冬候久クシテ八箇月ノ間ナリ其間南方ノ地ハ雪フルヿ或
一丈餘モ積ル然レトモ北ニヨルホト雪ハ少シ
夏候ハ短シ故ニ穀少ク或ハ無キ處モアリ但子デルホル

トカムサツカ而已ハ毎年種々ノ田園ヲ作リテ分ニ應シテ
諸ノ穀ヲ収レナリ
雷電ハ甚タ稀ナリ且遠クシテ彷彿ナルモノナリ但風雨
ハ多シテ強シ
鐵ト鹽ト産スル処ナシ故ニ常ニ得難ク其價甚シ只ハ諸獸
皮ト魚類トハ多ク産スルナリコレニ依テ福有ル人ハコレヲ
以テ他ノ鐵鹽ト交易シ貯ヘ置ナリ
國人ヲカムサカチルスト云和蘭呼ナリ是數百年前蒙古國
リ其人衆ヲ置タリ彼人アルムアムル云ハ支那ニテ黑龍江ト呼モノリ ヨリ渡リテ
処々ニ住居ヲ搆ヘテ其子孫多ク土人トナル散在スルナリ
此人短身灰色黑髮平面尖鼻深目淡眉ニシテ小腹
滿テ午脚瘦タリ但海濱ニ住人ハ長身濶肩ナリ
其衣ハ諸獸皮ヲ以テスコレヲ續テ用ユ
其食ハ甚汚雜ナリ土俗總テ犬ヲ多ク飼フ飲食毎ニコ
レト共ニシテコレヲ一器皿ニ盛テ聚リ食フ亦更ニコレヲ
清ク調スルヿナシ其住屋ハ地ニ穿テ入ル丁四五尺其上
ニ四柱ヲ立テ一重ノ床アリテ斜ニ陛ヲナシテコレヨリ
出入ス上ニ屋壁ヲ設ク床ニ方孔ヲ作テ烟ヲ出シ去ル処
トス窓ニ及ブロヲ堅クス
其家器鉢皿等皆ベルケンホウト凡和蘭呼ヲ燒石或鯨等
ノ骨ニテコレヲ穿チ□メテ用時々魯西亜ノ人此ニ来ル
モノニ供スルニモコレヲ用其銅鉄等ノ器ヲ用ルヲ見

又其産業ハ専ラ漁ト猟トノミナリ
犬ヲ多ク養テ牛馬ノ如クコレヲ使フ雪中氷上ヲ舟デ
行ニコレヲ牽シムルナリ
妻ヲ娶ルヿ二人或ハ三人旦数々コレヲ更ムルナリ
子ヲ産テ若シ孖ナル片ハ一ハコレヲ殺ス
神ニ事ルヿ有レ凡是悖カラス只獣ヲ殺シテコレヲ供フ
ル耳ニシテ其餘ノ祭祀等ヲナスヿナシ邪神ナルモノ有
コレヲハ却テ常ニ甚恐懼スルナリ
凡諸ノ約ヲナス片ニ種々ノ事ヲ設ケテ盟ヲ立ルナリ旦
死後其魂気ニ更ニ苦楽ヲ受ルヿ深ク信スルナリ
人死スル時ハ其家ノ外ニ曳テ出シ火ヲシテ食ハシム

按ルニ已上ノ説ハ往昔ノ風俗ヲ記スル者多シ次ニ記ス
ル取ヲ以テ知ベシ
昔時此国人常ニ能ラニ必ルヿヲハタ幸トシ事ヲ勤ルヿ
ヲ念ハス故ニ荒蕪ニ居ルヿヲ安シタリキ然ニ寛保元
辛酉歳魯西亜ノケイセリン女帝トフカ如シ エリサベトナル者其
教法ヲ送リテコレヲ訓導シテヨリ悉ク帰依尊信シ旦諸
ノ禮義アルヿヲモ知ルヿヲ得タリ
此国中ニクリレルスト云人衆アリ即□ノ出嵜及□ノ諸
嶋ニ住モノヲ云大抵カムサツカテルスニ似タリト云ヘ凡
此地ノ人ハ終身ニ毛アリ男ハ唇ノ正中ニ黥シ女ハ總テ
黒キ黥ヲス男女共ニ銀鐶ヲ耳ニ懸臂肘ニ花紋ヲ黥ス

衣服家屋カムサカテルスニ似タリ然行状彼カ如クニ汚
穢ナラス魚ハ少ク食シテ汝獸ヲ多ク食ス妻ヲ多ク見ス
其女ヲ懲スヿ甚嚴ナリ
神像ヲ造テコレヲ尊信ススハニテルスヒ木ヲ以テ作リ
名ケテイコヨルヒ獸ヲ調シテコレニ供ヘ其皮及家獸
ノ皮ヲモ其神像ニ被ラシムルナリ
人死スル片ハ冬ハ雪中ニ埋メ夏ハ地ニ埋ム其殯尅ナルヿ
カムサスカニ等シ
北土俗前時ヨリ少シク禮ヲ知リ人和モアリテ相親ニ稍
嚴格ナル所モアリテ義ヲ知ルニ近シカムサカテルスノ
前時ノ俗ヨリハ豆シトス

前百三四年魯西亜ノヲトフトヒ人カムサカニ漂
着シテ僅ニ巡撿シタルヿアリ即其国ノ周圍ヲ廻覽多
リ其ヨリ後ハ誰アツテ北地ノ事ヲ詳シマニ通知セシムル
者ナシ然ルニコサツケンノ人アトラソフヒ者北地ノ要衝
ヲ見タルヿ多シ即元録十一戊寅ノ歳被レガ一黨ノ人ト
共日出ノ工カケクコレケルスヒ至リマクワク辺ノ諸人
ヲ服従セシメテ同十三庚辰ノ歳七月ニ還ルヒ其貢物ヲ
ベリスノ皮三千二百ベヘルスノ皮一十七臨腋獸ノ皮四
狐皮灰色ノ者十三千黄赤ナルモノ九十一ヲ以テ又サヘ
ルスノ皮四百四十自己ノ得ル所トス
正徳四甲午ノ歳コスモスソコロフヒ者ヲシテ北辺ヲ

巡見セシム其時ノ東砂葛ノ周圍ノ諸島ヲ魯西亜ニ
服セシム其船路オユワコイ（イルクツカノ南濱ニアル地名）小城ヨリ出帆
ニテ（ニシユリスヘニシキンスカ）港ニ入テカニサスカノ北地ニ到ル又オユ
ツコイ海ヨリ径ニカンサツカノ城下ニモ着船スルナリ
享保十五庚戌歳カンサツカノ人聚リ起リ魯西亜ニ背ク
然ルニ幾ホトモナクシテ鎮リテ其後悉ク和従シテ以来
毎年サヘルス
厥ノ皮膚膝獺栖等ノ皮ヲ貢セシム（国中人列々ニ牧宛ヲ貢ス）
ノ人口ニ應シテ毎年サヘルス
此国官府五ケ処アリ其一ハボルスケレツコイ是ハ
ホルスカヤレカ云大河ノ辺カムサツカノ南ニペンシニス
カノ海濱ヨリ三十三ウルステンニ在リ方七十ハテノンニ
柵ヲ搆ヘ家三十軒又外ニゼ子ヘルノ生垣ヲ搆ヘタルル
シヤノニコラアスケルク（寺観ノ類）ヲ建テ此処餘ノ官府ヨリモ
菅作ハ疎ナレ尼甚利潤アル処ナリ其故ニ他國ノ旅客
高估集ルヲ以テ是オユツコイヨリノ船路ヨキ故ニ諸
人先此処ニ来ルナリコノ故ニルシヤノ官長モ此処ヲ常居
トスルナリ其二オツヘルホルトカムサツカ是往古ヨリ酋
長ノ居ル処ナリカムサツカ河ノ東側ニアリボルスケルス
テンヒ北ヘ流ル此官処ハ金銀ヲ納処ナリ倉庫二箇処アリ
ニコラアスケルク一ケ処家二十二軒五十六ノコサツケンノ
住居アリ其三ヲテルホルトカムサツカ同河ノ辺ニテ其
ハリロヨリ三十ウルステンオツヘルホルトヨリ三百九十七

ウルステレニ在リ方四十ハデメンニ柵ヲ搆ヘタリ大家三十
九軒サンタマリアケルク在リ其四ホルトアワツカ南ノ方
ホルスケレツプイノ東アワツカノ漾ニ在リ即アワツカ川ノ
海ヘ落ル処ニ一千七百四十年ニ是ヲ建ツ此処ノ海濱ニハトロ
ハウルスカヤ大港アリ其五ホルトテギル右ノホルトヨリ
少シ後ニ建タリ即カムサツカノ北ノ方テキル川ノ辺ナリ

屬嶋

クリルノ諸島

カンサツカノ南ノ嵩ヨリ南西日本ノ方マテ大小連続シタ
ルモノ大凡二十五已上一日ニ十六アリ其餘ハ詳ニシカタシカンサ
ツカニ近キハ皆ルシヤニ屬ス遠キハ別ニ屬スル所アルヘシ

此諸嶋ノ内数々地震アリ又時々火ヲ発スル山アリ

或云此諸島カンサツカノ方ヨリ初トシルシヤノ言ヲ用テ第一島第二島ト次ヲ逐テ名ヲ命シタリ　又云酒泉ヲ出ス島アリ蝦夷人来テコレヲ汲テ還ルモノアレ共海上ヲ経ルニエテ悪ク常ノ水ニ異スルナリ

此諸嶋ノ人クリルノ人ト互ニ交易ヲナス又日本人モコレニ和ルヒ
ウツ地人　桜スルニ吾邦ノ人ヲトロフ民モノ是ナルヘシ即轉音ナリ魯西亜ヲオロシヤトキクヲ以テ知ヘシ
ウルペ　ヲトロフウルツプノ人ハクリレスヨリ来住スト云

此二島魯西亜ニモ日本ニモ屬セス俱交易ヲ通スル耳ナリ
グランドチテルニテ　和蘭呼ナリ葉ノ如キモノナリ　布ヲ製シ日本ノ緡本
綿鐵器等ト交易スルナリ
此島ノ東南ニクナシリ　原書クナツリトス　蝦夷ニ屬シタル島アリ
又ニツヒエ大嶋アリ日本ト一線ノ海路有テコレヲ隔ツ

ヲトロフ等ニ魚油乾魚獣皮等ヲ産ス日本人松前島ノ人ト同ク未テ砂糖米緡布鉄器等ヲ以テ是ニ代フ

チ六百四十三年ニ紅毛人ノ舶漂流シテカムサツカノ南日本ニモニテノ諸島ヲ巡見シリタリト云

北島既ニ日本ニ從ヘリクナシリノ人ニコレヲ當ニスルニ北海路ノ隔アルヿヲ云ヘリ（海路ヲ檢シタルヿアリ未詳）北島南北凡六百里ニアリ日本人蝦夷ト名ク

ベリングス嶋

東洋ニアリ東砂葛川ニ當ル相隔ルヿ六十里許

寛保元辛酉歳魯西亜ノ海船ノカビタンベリレグ云者始テコレヲ見出シタルナリ長サ四十五里半餘横八五里半餘狹キ処ハ二里又ハ三十町許ナル処モアリ島中一條ノ石山アリ地震甚多シ其高山ニ登リ見ルニ小島五六其辺ニアリ又其北隅ヨリ晴天ニ眺望スルニ四里許モ隔テ高山雪アルヲ見ル是アメリカノ北洲ナリ

チオメデス嶋

以北六十七度ニアリシベリイノ北東ニ出ル処ニ在

サントテウレンス嶋（一名サントラウレンス）

チヲメデスヨリモ尚北隅ニ出ル処アリツクコツコイ又ニテラギンスコイノツス（名ク図中ニハウカラツキト記シタリ）

享保十二丁未歳ベリング（上ニ出人名）此嶋ニ来リ見ル土人有ルヿヲ見ズ此カビタン此辺ノ諸嶋及北アメリカノ地ヲ巡見シテ以北六十餘度ノ地ニ到レリ又此後カビタンニテキリコウナル者北アメリカノ北辺ニ近キ処六十五度ニ至ル迄ヲ見分シタリ

アルクット

宝暦十三癸未歳魯西亜人五六人ニテコウイナ川ヨリ大

北氷海ニ到リツクコツコイノ出嵩七十四度ニ到ルソレヨリ南ヘ下リ海峡ヲ経テアメリカノシベリイ東砂葛トノ相距ルノ疆ヲ點撿シテ以テ北六十四度ノ諸島ニ到リ其地ニ上リ彼土人ト獺皮ヲ交易シ〻ベリングスノ諸島及此島等ニ交易ノ〻ヲ約ス同行ノ人アメリカノ屈嶋ナリト思ヘリ左ニハアラス然レ𪜈此地甚アメリカニ近シ郡シベリイノ東地ノ限ニテ彼大洲ト海峡ヲ相距ル〻六十里ナリ

寛政辛亥春正月

前野良澤憙

請問

オシヤノ帝一千七百六十三年紅毛昏合ノ内見女帝第二ノカタリナトアリ今尚然ルヤ

ペテルスブルク新都ムシクワ郡ムスコビヤノ旧都今何レノ処ヲ帝居トスルヤ

アメリカ大洲ノ内ニモロシヤノ領地アリヤ

其語ハスラホニヤノ言ヲ用ルヨリ然𪜈今ハ亘三本同文字ハスラホニヤトギリイキストヲ用ルヨリ共ニ四十三字アリト紅毛書ニ出タリ今見所ノモノ四十二字之如何紅毛昏合ノ誤ナラン歟スラホニヤノ文字ヲ見ルヿヲ得ヘシヤ（キリイキスノ文字ハ紅毛ニ出タルヲ既ニ見タリ今ムスコビヤノ文字ヲ見タルヿヲ得タリ全キスラホニヤ而已ノ文字音韻ヲ知ルヘキヿヲ希フ者ナリ

ロシヤノ里法ハ一度一百。五ウルステニ又云七十五ウルス
テントナリ何レヲ用ルヤ
ハデメン紅毛ノ言ナリ大抵吉邦七尺許ト云ロシヤニ吾一間ト云如キノ者知
ヘシヤ又尺寸等モ聞ヲ得ヘシヤ
カムサツカノ官府三十年前ハ柵ヲ搆ヘタルト見ヘタリ
今ハ城壁ヲモ営ミタルヤ
先年或人ヲロコ嶋ニ城ノ見エル由ヲイヘリ今如何ロコ嶋ハウルツプヲ云ヤ
ロシヤニ届セル諸島ヲ詳ニスルヲヲ得ヘキヤ
タバコヲ好トイヘ共カキタハコノミヲ用エ煙ニ子細アル故
貴人ハ不用ヨシ如何

ロシヤノ人若シヘブレエウノ文字音韻言語ヲ知ルヲアラバコレヲ傳ハラシヲ得ヘキヤ因テ云憙素ヨリ奇字ヲ如何朝鮮蒙古韃靼梵文マレイスギリイキスヘブレエウス和蘭共ニハ種ノ文字采録シ得タリ就中和蘭言語迫ヲ聞テ私ニ其畧ヲ窺ヲ得タリ今東都ノ人大槻子及其餘彼ノ畧ヲ讀徒ハ悉ク憙カ傳ル所ヨリ出ル由或人ノ語ヲ聞タリヘブレエウスハ和蘭ノ書ニ出ルヲ畧抄シ得タルノミ十ノ餘ノ六種モ只文字音韻ヲ考索シタルニテニテ其事ヲ讀ムヲ難シ頃年或人ヨリオロシヤノ文字ヒヲ見ス憙コレヲ推考シテ魯西亜ノ字ニテ北邦ノイロハナルヲヲ知ル其後佐藤源六子ノ記セルオロシヤノ草書如キ体ノ

四十二字ヲ或人ヨリ得テ大ニ一邦ノ文字ヲ得タルヿヲ悦
ヒタリ然ルニ今正月十日大槻氏ヨリ貴君ノ記セル彼邦ノ
真草二体ノ如キヲ傳ヘタリ即愉悦スルヿ実ニ甚シ尚
歸席ノ後詳ニ教示ヲ願ヒヿヲ深ク仰望スル而已ナリ
右和蘭畳ノヿ貴君ヘ初テ以小帖推テ通シ奉ルニ大其ヲ
ナスノミ惇ニ似クリト云ヘ氏憙年四十八ヨリコレヲ学テ今歳
犬馬ノ齢六十九其間独学固陋困求苦心スルヿ凡二十
年ニテ尚止ムヿヲ得ス是但徒ニ奇字ヲ好ムノミニ非実ニ
寸志ナキニアラス然レ氏晩学鈍才ニシテ識者ノ為ニ大ニ
恥ル所也亦旦自辱シ自憐ニ昏ニ臨テ頑態ヲ発ルナリ
希ハ憙ガ老テ益々寸衷微意アルヿヲ憐察シ玉フテ
愚
頑愚ノ呢喃ヲ罪スルヿ勿ランヿヲト云尓
又請問ヒサクイン蝦夷ノ図ニ今諸ノ蝦夷ノ図ヲ視ルニ北嶋ノヿ見
ヘス其名モ亦聞ヿナシ如何ニ北方サモユデヤノ内身長四尺
ニ過サル人又ハ耳高ク伸ヒテ頭ノ上ニ及ブアル由シ若ロシ
ヤノ人是ヲ視タルヿ有ルヤ是ハ無益ノヿナル氏蘭書ニアル
所疑シキヲ以テ是ヲ実ニ見タルヿ有ルヤヲ正サンカ為
ノミナリ

東察加志終